SARS（重症急性呼吸器症候群）の現況

岳中　耐夫

人類の繁栄に関わった重大な感染症は多い。歴史的にみてインフルエンザと考えられるスペインカゼの猛威、18世紀の梅毒、19世紀の結核、20世紀のエイズは特筆すべき病気であり、そして今回のSARSは21世紀の歴史に残るかもしれない感染症と考えられる。

SARSの病態と現状について現在までの経過と対応さらに今後の対策について述べる。

SARSの症状は38度Cの発熱、悪寒、筋肉痛などの全身症状から始まりやや遅れて咳や痰などの呼吸器症状が出現し、極めてインフルエンザに似ている。SARSの原因は新型コロナウィルスであり、約１週間の潜伏期をみて初期症状が出現する、咳などの症状がでるころが最も感染性が高くなる。

SARSの発生数は2003年10月WHOの報告では世界中で8098名発症し774名死亡している。中国本土で5327名発症し349名死亡、香港で1755名発症し300名死亡、カナダで251名発症し41名死亡となっている。世界中の32カ国で患者が出た。死亡率は9.6％であった。2003年7月5日にWHOは終息宣言を出した。その後は研究者などで数名の患者が出ているにすぎない状態で現在に至っている。

日本では幸いなことに患者は一人も出なかった、しかしSARSの進入に対して感染症法の規定に準じて指定感染症とし、その後１類感染症に指定され最も危険な感染症として定義された。

同時に、患者が発生した場合を想定した訓練など各地域で行われ、隔離病院などの整備も全国的に行われてきている。各指定病院では医療関係者の院内感染対策が問題である。重要なことは国民のSARSに対する理解であり、パニックにならないようにすることである。

さて今回何故SARSが世界中に急に広がったかと考証してみる。最初は2002年11月に中国広東省で１号患者が発生している。世界中に広がった一番の原因は2003年2月香港のメトロポールホテルに宿泊した患者からベトナム、カナダ、シンガポール、米国、中国の各地へ帰国した客より広がった。最初は原因不明の肺炎であり各病院で医者やナースなど医療関係者が感染している。ベトナムではいち早くWHOの介入などもあり比較的早く終息したが、この時期に(2003年3月12日にWHOは緊急警報を出した)この病気をSARSと命名した。カナダでは感染対策などは先進国と考えられるが、一度終息宣言をした後に再拡大している。中国は少し遅すぎたかもしれないが、国の最重要課題として対応し何とか封じ込めに成功した。

基本的に現在までに分かっていることは、濃厚な接触と飛沫感染が主な感染経路であり市中での感染の可能性は少ない。症状のない人からの感染の可能性も少ない。環境からの器物を介した感染の可能性はあるが食物、輸入品、郵便物などからの感染の報告はない。

まとめとして、SARSの臨床像についてはまだ不明な点も多く、その診断、治療、管理には慎重を要する。日本におけるSARSのトリアージはまず感染伝播地域からの帰国者や旅行者などの詳細な問診が重要である。現在まだ治療薬はないが予防としてのワクチン開発は進んでいる。最後にパニックにならないように医療従事者をはじめとして一般市民の理解が必要である。

世界中のどこにでも交通機関の発達で２日間もあれば行ける時代であり、今後 SARS のような感染症はいつまた出現し世界中に広がるか分からない、今回の教訓を生かしたいものである。歴史的にみて病気の蔓延により人類の繁栄が遅延したり、阻止されたりした事実は多く、SARS がこの様な歴史を作らない事を祈りたい。